

小松・金沢で新たな商店街活性化に挑戦 ～平成23年度商店街実践活動事業に応募～

この事業は、全国商店街振興組合連合会（全振連）による支援事業である商店街振興基金による「コミュニティ活動」事業補助制度が廃止されたこと、地域への貢献、社会的課題への対応、地域コミュニティとの連携等をおこなうことで、商店街の活性化、消費の促進に効果を発揮することから、新たに商店街活性化支援事業として全振連の公募による事業となったものです。
本年度採択された事業は（2年目）、第1次142、追加24、第2次43の合計209事業です。うち、中部地区では、石川県からは4事業、富山県からは4事業、岐阜県からは4事業、三重県からは1事業、愛知県からは4事業採択されました。
実践活動事業の内容は次のとおりです。

1 石川県関係

1 横江町商店街振興組合

○事業名 高齢者と若者を繋ぐハブ商店街～イベントと紙媒体とネットの融合から高齢者と若者を繋ぐ架け橋となる商店街を目指す～

○事業の概要

- ・「よこっちょポックまーと」の開催
- ・商店街HP「よこっちょ大図鑑」開設
- ・「よこっちょマップ」
- ・「よこチラ」

編集者もおすすめのごだわり商品の紹介やイベントの案内にあわせ商店街外の人目線のコラム、おもしろネタ等、指向を変えながら毎月発行する。リーフレット形式の保存版

- ・「ご意見箱」の設置
 - ・「よこっちょファンカード」
- 商店街ブログ等にコメントした人等を対象に商店街ファンになってもらう。商店街サービス券を進呈、来街動機づけする。

○連携等

- ・よこっちょラボ（横江町商店街を愛するサポーターグループ）
- ・横江町商店街まちづくり協議会
- ・町会、高砂大学、公民館、など

2 小松中心商店街振興組合連合会（三日市商店街振興組合・八日市商店街振興組合・小松中央通り商店街振興組合・小松駅前大通り商店街振興組合）

○事業名 スマートフォンを活用した、まちなか文化・歴史資源ガイドマップ事業～商店街周辺の文化・歴史資源および路線バスの情報を提供することにより、交流人口の拡大を目指す～

○事業の概要

- ・歴史・文化資源募集・選定
- ・リーフレット作成
- ・スマートフォンアプリ制作
- ・路線バスによるまちガイド（巡り）

○連携等

- ・まちガイドボランティア「ようこそ」
- ・小松市あんしん生活課、小松バス株式会社（路線バス）
- ・I T-N P O（システム運営）、など

3 片町商店街振興組合

○事業名 がんばろう日本！東日本大震災復興支援ミニ物産展～被害に遭った東北名産品などを、I Tを駆使し片町商店街のコミュニケーションを使い販売し、復興へのささやかな支援を～

○事業の概要

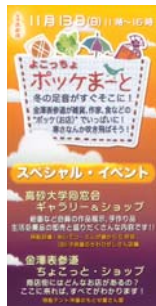
- ・ミニ物産展
- 青森県（弘前、青森、八戸、南部）、秋田県（湯沢）、岩手県（一関）、山形県（山形、鶴岡、尾花沢、白鷹）、宮城県（南三陸、石巻、気仙沼、仙台）、福島県（喜多方、郡山、会津若松）から名産品44アイテムを、金沢学院大（金沢まちづくり学生会議）、金沢工大の学生や一般の方20数名の応援を得て販売
- ・被災地の写真展

○連携等

- ・宮城県商店街連合会等震災地の商店街連合会・協力店
- ・金沢まちづくり学生会議（金沢学院大学）
- ・片町会（町会）、学生、一般社会人、など

4 石引商店街振興組合

○事業名 取り戻そう学生のまち・みんなのまち～商店街空き店舗にコミュニティスペースを確保・地域の大学と協働し、地域住民との集い、ふれあい交



流をとおり、まちなかに人が集い、行き交うまち・商店街を目指す～

○事業の概要

- ・お茶会・ミニお宝美術館（昔語り）
- ・映画会
- ・お地藏さまを描いて、お地藏さま探し・商店街巡り
- ・学生による下馬劇場（個店で入場整理券を）
- ・石引バザール
- ・ちびっこ広場 お手玉、メンコを作って遊ぼう

○連携等

- ・金沢美術工芸大学、金沢大学
- ・地域公民館、児童館、婦人会、老人会、石引大四会青年部、など



2 富山県関係

1 中央通商店街振興組合（富山市）

まちっ子絵画展 I N 中央通り

2 千石町通り商店街振興組合（富山市）

ゆるキャラでつなぐコミュニティの和「がんこちゃんの誕生日」（事業内容）キャラクターデザインを公募、秋のお披露目「千石こまちちゃんの誕生日」イベント

3 氷見市比美町商店街振興組合（氷見市）

潮風フェスタ2011

4 となみ駅前商店街振興組合（砺波市）

クリスマスイルミネーション in となみ

3 岐阜県関係

1 恵那銀座商店街振興組合（恵那市）

恵那まちなか市

2 多治見ながせ商店街振興組合（多治見市）

「なかせ商店街×陶芸作家」ミュージアム（事業内容）商店街、ストリートマルシェ（ストリートマップ・店主達の似顔写真）

3 岐阜柳ヶ瀬商店街振興組合連合会（岐阜市）

柳ヶ瀬123（フンツースリー）計画～音楽と写真で迎える柳ヶ瀬の歴史～

4 高山市商店街振興組合連合会（高山市）

商店街まちなかウォーカー事業

4 三重県関係

1 浦之橋商店街振興組合（伊勢市）

宿泊観光客導入作戦（伊勢の今昔ミニ周回ガイド）（事業内容）軽トラ市と周辺の旧跡を組み合わせた観光客導入作戦

5 愛知県関係

1 愛知県商店街振興組合連合会（名古屋市）

商店街青年部による被災地商店街への支援事業

2 笠寺観音商店街振興組合（名古屋市）

地域のコミュニティ拠点「かんでらスタジオ」活用事業

3 半田市成若南部商店街振興組合（半田市）

「はんだ青山まちづくり」青山をブランディング

4 半田駅前商店街振興組合（半田市）

はんだ駅前ふぁみりー広場～笑顔で「こんにちは」半田の魅力再発見～（事業内容）販促企画スタート「まちじゅう60円の日」、親子ふれあい工作教室・知多の恵みブース・ご当地クイズコーナー・ステージイベント・コミュニティバス実験（交通弱者）

平成24年経済センサス・活動調査にご協力を!!

- ・この調査は、日本の産業構造を包括的に明らかにすることを目的とする国の重要な調査で、3年に1回行われています。
- ・今回の調査は、平成24年2月1日現在で全ての企業・事業所を対象に調査が行われます。
- ・調査事項は、経営組織、事業所の開設時期、従業員数、事業所の主な事業内容、売り上げ及び費用の金額、事業別売上金額などです。
- ・調査は、調査員が訪問して調査する「調査員による調査」と民間事業者を通じて郵送で調査する「国・県・市による調査」の二つの方法で行われます。

「よこっちょポックまーと」金澤表参道が雑貨、作家、食などの「ポッケ(お店)」がいっぱい ～金沢・横安江町商店街で始まる！

商店街の通りは、地域の人たちが集い交流を楽しむ「公共空間」とばかり、若手のクラフト作家さんといっしょにひょうたんハシを使ったミニワークショップ、草木染め、アクセサリーや小物といった雑貨、キレイで可愛くて良い香り、そして何より優しい天然素材100パーセントの手作り石けんラミティエ、フェアトレードコーヒーで一服、若草自慢のワッフル、無農薬野菜入りベジタブルカレー、山のふくらばんななどのこだわりの飲食などを介し店主とお客との間で楽しいコミュニケーションの始まり。大勢の若老男女が行き交う賑わいあふれる通りに変身です。



一坪テントは、右に、左に、まんなかに、片側にとバランス良く配置され、300メートル余りの通りは、何倍にも活かされています。その中を来街者は、ゆったりと自由気ままに散策を楽しんでいます。自分は、どの色が似合うかしら？お肌によい石けんは？商品を手に店主と話し込む女性連れ。会話しながらお買い物を楽しんでいる人。途中静岡で焙煎しているコーヒー豆で淹れるコーヒーとクッキーでホットー休みの人、など。

お店とお客で賑わいあふれているにもかかわらず、不思議とゆっくり、ゆったりとした時間が流れており、会う人に声を掛け、掛けられ、まんなかにホット・コミュニティの出現です。



来街者を見ると、子どもと手をつなぎ、乳母車を引いて来街する子育て中の女性、女性同士のお友達グループ、近隣の人でお買い物のついでに立ち寄る主婦の方、高齢の方。金沢では、近年まちなか居住がざかかになっており、そうした高層マンションに住んでいると思われる人も大勢見かけます。

商店街中程にある「東別院山門」の前で、「金沢Jazz Street 2011」があり、少しだけだる気な、しかし心地よいジャズの調べに秋の気配を感じ

させてくれました。このまちかどジャズライブは、連休の3日間中心部の屋内、屋外など20会場でまちなかの歴史的空間を活用し、全国の大学ビッグバンド(学生)などが集まって行われたものです。

商店街各お店では、「よこっちょポックまーと」に呼応して、店頭にいすやテーブルを出しサービスするお店、ワゴンセール・割引セールがあちこちで行われており、お店の前にある、金沢美大生による「絵看板」(どんなお店？に答えた絵画)を見て店内に入っていき人、そこで店主との会話を話かします。

このイベントが開催されたおかげで、通りは一変若老男女が行き交い、普段静かな門前通りとは一味も二味もちがう華やかな通りと成りました。「ハブ」としての商店街活動が地域の賑わい再生に、また個店の賑わいにも運動していくことをうかがわせるに足るおおきな収穫があったように思いました。

前線の影響でぐずっていたポツポツの雨もあがり、ジャズ演奏盛り上がる。だんだんと日暮れ、あちこちのポッケに小さな灯りがともる、午後7時に幕を閉じる。「ポックまーと」は、昨年(2010年)の5月、9月、11月、あとは、今年の3月18日(日)に予定されています。どうぞご期待！

出店名	17日出店	18日出店
あいてこーむ	あいてこーむ	あいてこーむ
...



珠洲市「飯田二七の朝市」元気まつり

飯田町商店街では、2と7の付く日に行われる「飯田二七の朝市」は、室町時代から続くといわれる歴史的文化的な地域資源。その貴重な地域資源を活用し、朝市の人たちの高齢化などで減少しつつある市に、活気を取り戻してかつての地域の賑わい再生を図ろうと商店街や商工会議所、行政などの人達が協力体制や新規出店の募集を申し合わせ、今回の「飯田二七元気朝市まつり」が実現したものです。



当日、11月27日(日)は、前日のうそ寒い時雨模様も嘘のよう、好天とともに朝市の幕開けとなりました。

今回は、いつもの、その季節採れたての野菜、果物、きのこ、根菜、お花などを販売するお店(？・地べたに商品を並べて販売する市、数年前から商店街では台を無料貸し出ししています。)の合間合間に商店街や地元店主による出店、遠方から応援に駆けつけてくれたお店で中央通りの両側には、22軒のお店が連なり、「市」に活気実現です。

道の駅旅煙さんの、まぼろしの大浜大豆でつくった地豆腐、豆乳、若山・若富喜会さんのほころび梅、梅たろう、古漬のつけもの、能登町小木の海のおやじの味「ごろたくん」(いかづけ)、浜野水産さんのおでんの素、鏝・鰯の干物、広瀬商店さんのいか焼き、といった珍品、中能登からは、菅谷のキムチ、じゃがいも、さつまいもの出店です。珠洲実業高校の「すずの実商店」では「椿姫」商標登録商品といった驚きの商品に、くるみくん、りんごちゃん、ショウガクン、ブロック、かおるちゃん、つばきのキャンドルなど高校生らしいかわい商品につい足を止めてのぞくことしきり。

商店街おかみさん会では、だんだんメニューの三色おはぎにきのこごはん、その横では「婦人用ソックス」、「貼るカイロ」や「洋服」もならべています。向いの坪野さんのところでは、おばあさん手作りの毛糸で編んだ食器洗い、藤井さん(お肉屋さん)は、大根とぶりの酢の物、それになぜか徳利も？夢のとさんは、能登湯浜塩田塩ラーメン、手作りジャム(NHKで放送されました。無添加・規格外の野菜・果物などで作ったもの)、夢のとぼん酢しょうゆなど。いろいろと多彩な商品が取りそろえてあり、興味津々です。



あいあいパーク横の「いっぶく処だんだん」では、朝早くから飯田二七の朝市の来街者のために食堂を開きサービスします。里山里海自然学校からは、カルダモンのチャイ、珠洲産らっかせいのビスコッティ、ヒマワリの種が並びます。チャイをのみながら、里芋談義にはなが咲きます。一親芋の周りに沢山の子芋が生まれるが、この地では、なぜかみんな「子芋」と呼ぶんですよ(笑)ー。

市内の有名スイーツ店、おとぎの国メルヘン日進堂さんの大地の虹、すずやきの耳、バウム耳、珠洲焼きの里一花なし用のシンプルご家庭用バウムチップス、格安のうに色とりどりの、しかしほろり草やカボチャなどの天然素材を使ったバウムクーヘンにうれしくなり、ついお財布の緒が緩みます。

通り中程のお店の空間を活用したオープンカフェで、嶋島から来たという数人の主婦人達は、あつあつのおいしいコーヒーをのみながら、まちに久しぶりに楽しみに来ました、ありがたいね！と、満足顔。

朝市が途切れる、通りの突き当たりに、「English Cafe&Used Books IWASHI-DO」、英会話体験カフェと古本・文庫カフェがあります。キャロラインさんにコーヒーを淹れてもらい会話を。入り口左窓中央にテーブルが貼ってあります。これは、お客様が、なかでゆっくりくつろいでもらうために考えたもの。感心。

通りの中央では、朝市なつかしの写真展がありました。誰が撮ったか、昭和48年10月、昭和51年6月、昭和53年9月、昭和55年2月、昭和59年10月。活気みなぎり、ひとがあふれかえった当時の盛況ぶりがうかがわれる貴重なひとコマです。

そうこうしているうちにあっという間に時間が過ぎてしまいました。感謝、感謝！！

お世話をされた方にとっては、大変なご苦労が多々あったことに頭が下がる想いですが、多様な人たちが営む今回の「市」の形に、これらのあるべき姿の一端を垣間見たように思えました。



注目してください！

- だんだんでは、石川県立珠洲飯田高等学校(総合学科3年生)による「ワンディシェフ・レストラン」が行なわれました。
- 1日 時 平成23年12月18日(日) 午前10時から午後2時30分
- 2メニュー 奥能登こだわりの食材を使ったオリジナル・メニューがそろっています。(500円)

第6回東京都グランプリ「中小小売商業活性化フォーラム」

～お客さまが喜び、お店が輝く商店経営～

平成22年11月4日(木)
東京都秋葉原ダイビル2Fで
東京都・東京都中小企業振興公社主催

売上を盛り起こすことで、店主の新たな経営意欲を引き出すとともに、商店街の地域に根ざした新たな魅力を発信することを目的に毎年開催される。基調講演、パネルディスカッション、東京都グランプリの表彰があり、受賞事業のキーワードは、ヒト・モノ・情報など地域資源を発掘・有効活用した地域との「連携性」や若手店主の参画を促進するなど事業の「継続性」。これからの商店街のあり方を知る絶好の機会となった。

1 パネルディスカッション

「店主に聞く！お客さまの心をとらえ、お店ににぎわいをもたらす経営の秘訣」と題し、酒井理氏（大阪商業大学准教授）をコーディネーターに、お客さまに最高のサービスを提供するプロ意識をもち、日々工夫して商している意欲的な3組の店主をパネリスト（石井康隆氏有限会社フローリスト赤キ屋（大田区）、岡田博紀氏エンレスト株式会社（新宿区）、齋藤由佳里氏・溝口真利子氏フラガリア×アナナッサ（江東区））に自らの経営と商人として目指す方向についてディスカッション、各店頭でのユニークな取り組みが報告され、活発な意見交換の場となった。

① フローリスト赤キ屋「お客さまのカレンダーになって大切な日をサポートする」

優雅で閑静なまち並で有名な田園調布。店の前を通る人も明るい気持ちになるフラワーショップ。田園調布の駅前に昭和4年から続く花屋さん。昭和63年に法人化。通りの窓ガラスを取っ払い、明るく光や風がぬけるようにお店の設計や内装にこだわる。ドラマで使われることもしばしばとか。

経営の特徴は、
・お客さまのカレンダーになってサポートしていく。
記念日プレゼントのギフト需要に過去の履歴をDMとして送付（記念日の1週間前の土・日曜日に）リピーター
・カルチャースクールなど地域とのつながりの場を設け、お店の賑わいをつくりだす。お店の2階を貸し出す。（生け花、ペン習字、子ども絵画）お店の1階を通るためお店に賑わいが創出できる。



② いちご専門スイーツショップフラガリア×アナナッサ「お客さまが楽しんでくれるお店を力合わせて実現する」

お店の名前は、いちごの学名からとったもの。国産いちごにこだわったスイーツ、いちご関連雑貨のお店を2008年に亀戸の駅から少し離れたところにオープン。

「いちご」になってかわいもののが大好きな大人の女性のためのストロベリーライフショップ」というコンセプトを発信し続けている。

経営の特徴は、
・「採れたてのいちご」のようにみずみずしく「潤った毎日」を提案。ケーキをメインに焼菓子、ジャム、雑貨など「いちご」を使って表現、提供している。「いちご」をとおしおいしい、かわいでお客さまにアピール。
・ポイントカード
毎月15日は「いちごの日」でポイント2倍。来店者数が落ち込みやすい「雨の日」はポイントが3倍といった仕掛けをしている。「そんなにももらえるの？」という驚き、喜びがお客さまとの距離感を近づける。



③ 江戸前炭火焼き kemuri 「おもてなし」で心地よいひとときを提供する

店舗は、JR中央線「飯田橋」駅、神楽坂通りを少し入ったところあり、2004年開業。日本では希少な「梅山豚」を看板メニューとした厳選素材を炭火焼きで提供。のと塩、食器やBGMにもこだわり、お客様に心地よく過ごしてもらおうための工夫をしている。お客の7.8割はリピーターとか。

経営の特徴は、
・価値観の共有を徹底的におこなう。「7つの価値観」、「30の行動指針」（従業員とともに定期的に見直し改善を続けている）
・再来店していただくためにはがきでお礼、名刺
・従業員一人ひとりが考え、行動する、サービスの質を上げる仕組みづくり
ミーティング、O1ノート、フィードバック



④ 共通してみえてくるもの

- ・マーケティングでいろいろ工夫していること
データベースを活用した在庫管理（減らし）→商品の種類を増やし、品揃え「やることリスト」で従業員全員に共有できる体制
いちご専門店としてどこにもないオンラインワンショップを目指している。
価値観の共有を徹底（大切にしたい「7つの価値観」）
・なんらかの強いでわりを持っていること
従業員にもわかり自分の価値観を伝えていく。
「買い」お客さまにどう伝えるのか、明確にしていること（お客のいいなりにならない。はっきりしたメッセージを出している）。
一番大切なもの、それは「いちご」。1～3月が一番美味しい季節。1年中をとおして使っていきたい。5月にはなくなってしまう。今は夏のいちご品質改善できるくらい成長した。将来は、「いちご博士」になること。いちご農園、いちご刈り、いちご旅行等々に夢膨らむ。お客さまに「いちご」を知ってもらえ、有り難うあふれるお店にしたい。
- ・関係性を重視していること
花屋は、季節変動が激しい。定期収入がほしいということで教室をはじめた。リタイアの人、主婦層を中心に「お花教室」からどんどん拡大（絵画、クラフト教室、秋には展示会）。商売には直接結びつかないが、店内に入って「居る」していくことで、店内が賑わってくれる。目先の利益を追い求めないことで地域との関係性を見いだしていくことができる。

2 商店街グランプリ

① 個人の部

商店街振興には、リーダーのはたす役割が重要だとし、今年度から「個人表彰」が設けられ、板橋区の遊座大山商店街振興組合の本田清司理事長が表彰された。氏は、長年理事役員として若手店主の育成、近隣住民、団体との連携に貢献し、環境配慮型LED街路灯のいち早い導入、商店小判の発行、スタンブ事業、地域参画型イベントなど多くの先進事業に取り組んでいる。

② 商店街の部

- 1) **最優秀グランプリ**
・教会通り新栄会（杉並区）
「干客万来！【教会通り物語】」
店主自らビデオカメラを駆使して取材して「教会通り物語」を制作。様々なメディアを利用して、広く放映。独創性があり、斬新なアイデアを生む素地に満ちている。
- 2) **準優秀グランプリ**
・大塚駅南口3商店街（豊島区）
（大塚駅南口盛和会、大塚商振会、大塚銀座通り商店会）（豊島区）「おおつか音楽祭2009」
大塚駅周辺に点在する140余りの音楽・芸能等のライブ上演施設を商店街が主導し連携携せ、潜在的な地域資源であった「音楽」を活用し大塚の街を音楽で染め上げた。
- 3) **優秀賞**
・押上・業平地区5商店会（墨田区）
（業平盛盛会、業平橋融和会、押上通り商店会、押上ガーデン通り商栄会、業四市場商栄会）
「おしなり」商店街活性化推進事業
商店街オリジナルグッズ・キャラクター「おしなりくん」をうまく活用。東京スカイツリーを機に観光客誘致に大きな期待が寄せられている。
・松陰神社通り松栄会商店街振興組合（世田谷区）
「第18回秋・世田谷区幕末維新祭り」
地元ゆかりの吉田松陰らを地域ブランドとして活用、歴史ファンをはじめ内外から多くの来客者が集まる。地元町会や大学生、さらに松陰ゆかりの各地自治体などへの連携を拡大させている点が評価された。
・立川南口中央通り商店会（立川市）
「農工商連携型空き店舗活用事業（南口ファーム）」
生鮮野菜店が不足していた商店街に、空き店舗を活用して交流地地方都市の物産販売所、農産物や地元産野菜の直売所、若者就労スペースを開設（南口ファーム）。人情味や楽しさを感じる空間を復活させ、周辺店舗への回遊性が増進。

買い物弱者支援～力を合わせて買い物弱者を支え、サービスを続ける7つの工夫!!～

(商店街ニュースno.91,92とあわせてご覧ください。)

買い物弱者は、今後ますます増えていくことが予想されています。長期にわたって継続して応援していくためには、ビジネスとして行うことが肝要です。ビジネスとして、買い物弱者ニーズの把握、低コストの運営などの工夫が求められることから、サービスづくりのステップごとにその工夫・ポイントをとらえていきたいと思います。

第1ステップは、利用者ニーズの把握を

- ①買い物弱者マップをつくらう
- ②地域ごとの課題に対応しよう
- ③輸送ルート効率化しよう
- ④ITを活用しよう
- ⑤遊休設備や公的設備を活用しよう

第2ステップは、サービスの開始と継続

- ⑥住民主体で運営しよう
- ⑦みんなで連携して事業を続けよう

第1ステップ!

①買い物マップをつくらう

- ・地図の準備
 - ・人口の記入 単身または2人暮らしの65歳以上の人数
 - ・店舗の記入 生鮮3品それぞれの店舗、医薬品取り扱い店舗を明示
 - ・徒歩商圏の記入生鮮3品、医薬品取り扱い店舗を中心に500メートルから1キロメートルの円を描く
 - ・この円からはみ出した集落（人数）＝買い物弱者数
- *特に生鮮3品や医薬品の入手困難地域を把握することが大切です。

②地域ごとの課題に対応しよう

- ・大都市部・中心市街地
小さな店舗で家賃を抑える
小分けした生鮮品をそろえる
休日や夜間も営業する
高齢者、共働き世帯や単身の方もターゲット
- ・都市郊外
30年、40年経過した団地では、店舗の撤退や高齢化も進んでいます。自治会や管理組合などが中心となって、共用部や店舗跡などを活用して、食料品販売、簡易食堂、マンション上層部までの宅配、見守りなど行う。
- ・地方（中心）都市
ショッピングセンター、スーパーなどの閉店、運転できない高齢者に対し、路線バスの再編、買い物、病院などへの送迎バスを考える
- ・地方周辺都市・田園地域
200～300メートルおきに集落をつなぎスーパー、病院を通るコミュニティバスを走らせるなどの工夫を
住民出資、回数券購入などで応援
- ・中山間地域
路線バスの廃止、農協の撤退などに対応した移動販売、住民等が自ら運営する店舗による

地域再生を行う。
コンビニの流通網や運営のノウハウ等を活用する

第2ステップ!

- ③輸送ルートを効率化しよう
・「空振り」、「遠回り」を減らす。
幹線と支線に分ける。二重、二葉幹線、支線が出会うタイミングを揃える。
- ④ITを活用しよう
・ルート設定
・スケジュール管理
・販売・在庫管理（鮮度、欠品管理も）
・予約・発注管理（追加・変更・キャンセル）
- ⑤遊休設備や公的設備を活用しよう
・空きスペースの活用
・公的施設の利用
・車両の活用
- 第3ステップ!
⑥住民主体で運営しよう
・共に体験しよう
・課題や理念を共有しよう
・実験しよう
・運営組織をつくらう
・絆（地域コミュニティづくり）を深めよう
（先進事例：庄内まちづくり協同組合「虹」）
- ⑦みんなで連携して事業を続けよう
・売上高を増やす工夫＝利用者を増やす、一人あたり単価を増やす＝訪問回数を増やす工夫
一力あたりの客数を増やす工夫
粗利を高める工夫
・売上原価を減らす工夫
発注（チェーン店加入、共同仕入）・物流（共同配送）、在庫・廃棄ロス削減など
・販売及び一般管理費を減らす工夫
人件費の効率化（兼務、高齢者ボランティアなど）
減価償却費を減らす
・営業外収益を増やす工夫
・国、地方自治体による支援制度の活用

資料：「買い物弱者マニュアルver.2.0」（平成23年5月経済産業省）

1 講演「よみがえる大正筋商店街」

講師 上田司郎氏 大正筋商店街振興組合会長(兵庫県振連副理事長)

講演の最後の一言。「客離れしないよう汗を流してがんばっている。これからはいいなあ、と思うことは どんどんやっていく。お金は、二の次。当たって砕ける。大変だけど、誠心誠意やっていく。これを次に引き続いていきたい。」震災後の復興には、なみなみならないご苦労があったことと思う。それを意とせずにはがんばっている姿がひしひしと伝わって感動しました。

新長田の歴史は古く万葉時代から、漁港として、ハヤシのトトレ、潮汲み筋(商店街)として栄えてきた。大正期にはマッチ生産、ケミカル業(全国一)へと推移する。戦後は、西の副都心として位置づけられ、近くの工場で働く社員やその家族の買い物場として賑わう。1970年代地下鉄の延伸、ニュータウン開発、地場産業の衰退が顕著となり、中心市街地の空洞化の一途をたどる。

バブル経済もはじけ、長引く不況のさなかの平成7年1月17日阪神・淡路大震災が発生。330メートル98店舗のうち93店舗火災で焼失するなどの壊滅的な打撃を受ける。震災後、「長田マスタープラン」が作成され、災害に強く、人にやさしいまちづくりをつくること、JR長田駅周辺を中心に大規模再開発や土地区画整理事業などはじまる。震災で被害が大きかった久二塚(久保、双葉、腕塚三町)地区の事業者達により複合商業施設「アスタくにつか」の整備が進められた。上層階は市営住宅、下層階には元来その地で開業していた商店や新規出店者、スーパー、医院、銀行、情報センターなどが入る。

(1) 協働のまちづくり

- ・仮設店舗・仮設住宅建設計画
知人や避難所を訪ね歩き、離れた店主を探し当てる。67店主に寄ってもらう。住居がほしい、早く店を出したい、の強い要望
- ・久二塚地区震災復興街づくり協議会が設置される。
- ・仮設店舗・住宅建設のための「土地の一時使用」承諾の交渉
土地月坪千円で借り上げる(85%の地権者が同意)
- ・入居募集・タイエーとの交渉
- ・仮設店舗「バラール名店会」設立総会
- ・復興元氣村「バラール」(99店舗+タイエー)オープン
- * 商店街、地域が一つのチームとなったことが結果として大きな収穫となった。

(2) 地域全体での取り組み

アスタきらめき会発足(1999年12月)
震災復興事業は動き出したものの、90店舗が10店舗までに激減するなどした当商店街は壊滅寸前となる。こうした危機状況に対処するため、若手事業者から商業組織の垣根を越えた任意団体を発足させる。「アスタ」とは、新長田南地区再開発エリアを中心としたまちの愛称「明日の街」という意味を持つ。

2001年新長田のまちづくりをソフト面からサポートする株式会社神戸ながたTMOとして法人設立。

(事業)

- ・空き缶回収機を設置
- ・高齢者に優しい商店街づくり事業
ショップモビリティ事業(低価格レンタル)
買い物も楽ちんバス運行実験(無料・病院経由、夏:おしほり、雨天時:傘の貸し出し)
お買い物サポートサービス
- * 2大市場、5商店街回遊促進:客離れしてしまうと、商店街はダメになってしまう。
- ・教育旅行受入事業
パンフ「新長田復興物語」
カリキュラム「震災学習」と「商人体験」(店主インタビューと商店街給紙教室など)
- ・食のまち長田の推進
鉄板こなもん祭(第7回)(協賛セールも)、新長田こなもんラリー
お好み焼きマップ(そばめしお好み焼き)、本町お好み焼きスタジアム、長田グルメ屋台・そばめし大食い選手権
てんこ盛り!
商店街に「ほっかけ」ノボリ
- ・新長田ブランドの推進(ほっかけメニュー)
ほっかけ食べ歩きマップ
ほっかけカレー(お好み焼きの具としての牛スジとコンニャクでかさ上げ)
ほっかけカレーラーメン、ほっかけ丼、ほっかけコロッケ
- ・事業系ダンボール共同回収モデル事業(クーポン券をもらおう)
何にもないところから出発、みんなの応援を得てやっとここまで来た。
- ・長田スター街道

2 講演「鉄人28号と三国志で新長田のまちづくりに挑む」

講師 正岡健二氏 NPO法人 K O B E 鉄人 P R O J E C T 理事長
震災後、再開発ビルなどハード事業は進捗していたものの、商店街活性化のソフト

面に危機をもつ。
・平成18年
K O B E 鉄人 P R O J E C T 立ち上げる
・平成19年
N P O 法人認証を受ける
・平成20年7月
「神戸(新長田)中心市街地活性化基本計画」認定

(基本方針)

人が集い、交流する、賑わいあるまち・新長田

(活性化の目標)

目標1 ものづくりのまち・長田の再生

ケミカルシューズ廃業等の既存の地場産業の高度化とあわせてものづくり。

目標2 賑わいのある商業空間づくり

多種多様な文化が混在する長田の地域資源を活かし、「食のまち」、「アジア」をテーマにした賑わいづくりや積極的なテナント誘致。

目標3 個性的な集客拠点づくり

鉄人28号モニュメント、にぎわい

広場などの個性的な施設の整備と地域の魅力資源を活かした賑わいを創出し、神戸市西部における新たな集客拠点として、これまでの神戸のイメージとは異なる魅力を打ち出す。

(新たな交流、集客拠点の整備)

都市基盤整備に一定の目処が立ちつつある現在、元小学校という地域の人にとってなじみ深い施設でもある旧二葉小学校跡地は、地域の活性化のための重要な資源である。文化・学習・ものづくりをテーマに賑わいとふれあひのある施設として整備していく予定となっている。内容については、地域住民主体で検討中。

① K O B E 鉄人 P R O J E C T

「個性的な集客拠点づくり」の一つとして、平成21年9月に高さ15.3M(重量50t、基礎重量150t)の「鉄人28号」のオブジェが商店街の北側・若松公園内に完成。(漫画「鉄人28号」「三国志」などの作家、横山光輝氏の出身地)

・ K O B E 鉄人三国志ギャラリー開業(平成21年9月)

・ 前広場で様々なイベント開催

② 三国志にちなんだ事業

近い将来の完成に向けて計画されている「三国志ミュージアム(仮称)」の建設に向け様々な関連事業を行い、地域を盛り上げていく。

・ 各商店街のアーケードに三国志登場人物のイラスト掲示

・ 三国志なりきり隊看板(三国志の衣装をまとった地元事業者たちの地域案内板)設置

・ 三国志等身大石像5体完成(平成21年)

・ K O B E 三国志ガーデンオープン 三国志特別展をおこなったところ子供から大人までの幅広い層に人気があり、マーケットが広いことから開設したのも

・ 三国志祭(第5回) 三国志企業ブース出店、三国志巨大灯ろうパレード、三国志仮装パレードなど

・ 琉球祭(第8回) 沖縄料理屋台、ステージ、琉球会(エイサー)パレード

③ その他の事業

・ ぐるなびTV(2カ所)

・ 地下鉄海岸線とのタイアップ事業(鉄人列車・スタンプラリーなど)

④ 長田の魅力(新産業の芽生え・企業進出)

「くつ」では成り立たなくなっている。いまあるものを広げていくことの方が事業としては進めやすい。そのなかの特微あるものを掘り下げていくことで、個性豊かな「まち」につながっていく。目標設定を上げることで、「文化豊かなまち」、「映画のまち」、「アニメのまち」、「食のまち」、「ロボットのまち」として魅力発揮することができる。

全国5校程度しか残っていない、1929年築の旧二葉小学校を耐震リフォームし、神戸市立地域人材支援センターとして活用する。第3金曜日はコスプレの日、四国、九州から若い女性(9割)が参加。日本3大メッカとなる。

そんななか「ロボット工場」も加わり遠方からも人が集まってくるようになる。

地場産業である「ケミカル産業」に代わる産業を期待している。

・ 「アニタス神戸」 西のアニメーター養成拠点。2010年神戸芸術工科大学(映像表現学科)が中心となり出資した株式会社神戸デザインクリエイティブのアニメーション事業部(テレビアニメ、劇場アニメなど)が運営。「神戸からアニメーションを発信したい」がアニメーションスタジオの創設となった。2011年、「神戸三国志ガーデン」公開のオリジナル三国志アニメ「三国志演義列伝 英雄群像」を制作。

・ 「神戸ロボット工場」 神戸市が推進する「神戸RT(ロボットテクノロジー構想)」の推進拠点。2010年11月オープン。工房には、NPO法人国際レスキューシステム研究機構と財団法人新産業創造研究機構(NIRO)神戸ロボット研究所が入居。



規制改革会議における商店街振興組合の活性化に係る議論について

(平成23年7月27日中小企業庁商業課)

民間有職者15名から構成される規制改革会議内閣府に設置され、「規制・制度改革分科会」においてその考え方が議論されました。

- 商店街振興組合は、地域の環境の整備改善を図るために必要な組織等について定めたものであるが、産業分類要件としては、小売業及びサービス業に限定されている。
- 都市部においては、近年の経営者の高齢化、後継者難等により、自ら営業していた店舗を第三者に賃貸し、不動産賃貸業の店舗オーナーとして、商店街振興に携わる事例が増えている。
- このような場合は、業種転換した後も、商店街振興組合の一員として、地域貢献活動が十分に担えることから、地域の商店街振興上、特段の支障がなければ、今後は法改正も含め産業分類要件を見直すことも必要である。
- 中小企業庁の対応方向として、「商店街においては、近年、経営者の高齢化、後継者難等により第三者に賃貸し商店街振興に携わる事例が増えていることから、このような不動産賃貸を行う事業者も定款で組合員資格を付与すれば組合活動に参加できることを周知する」として、法を改正するまでもなく、組合定款に規定されればいいことになりました。組合の定款に組合員資格を付与すれば、サラリーマンの方も組合員として商店街活性化に積極的に参加できることになります。

資料:平成23年7月27日の職員講習会(全振連主催)から